

生きものたちの危機

●生物の減少・絶滅について

絶滅のおそれのある動植物の現状をまとめたレッドリストなどをみると、我が国に生息する哺乳類の約23%、鳥類の約13%、爬虫類の約19%、両生類の約22%、汽水・淡水魚類の約25%が種の存続を脅かされており、また、維管束植物の約20%が同様の状況にあるとされています。

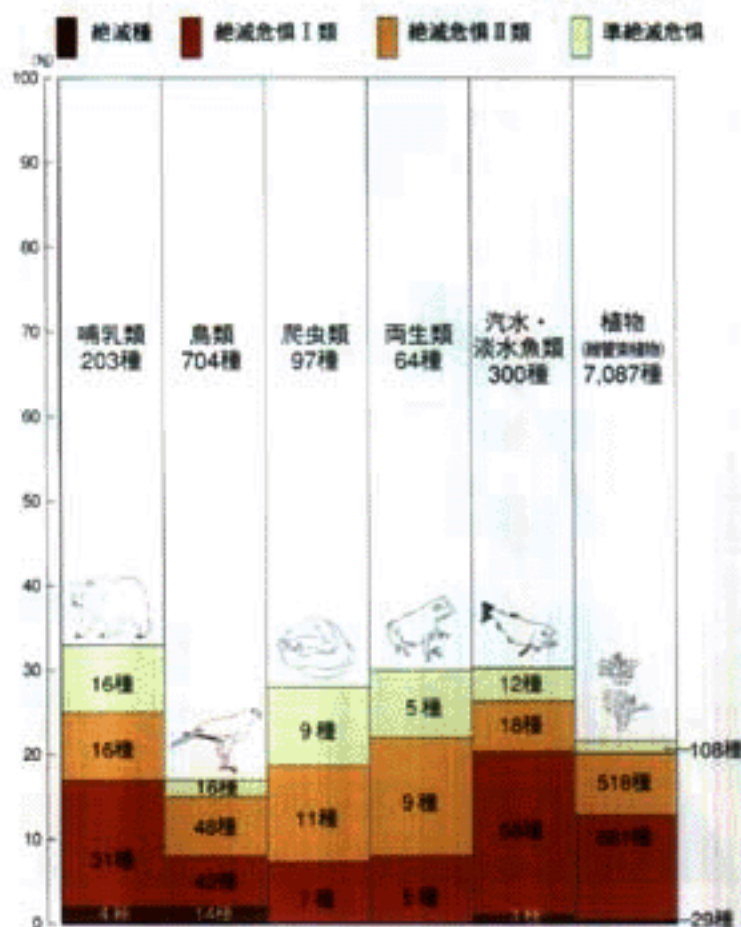
●絶滅の原因

野生の生きものが絶滅する主な原因は、生きていくための環境が悪化することによるものです。つまり、すみかとなる自然環境が人間の活動の悪影響によって消滅する、細かくばらばらになる、離れ小島のように孤立する、あるいはもともとその地域にすんでいなかった外来の生物種が何らかの形で侵入することや、人間がむやみにつかまえたりすることなどが野生生物に深刻な影響を与えています。

絶滅に至るかどうかは、悪影響の程度や、それぞれの種によって異なりますが、数が少ない種や、すんでいる地域が非常に限られている種は、絶滅の危機にさらされる危険が高いといえます。

分類群別レッドリスト掲載種数の割合

(原種・変種を含む)



【日本の絶滅のおそれのある野生生物】(環境庁編 1991)
環境庁資料 (2000) より作成

身近な生きものもレッドリストに



秋の七草として古くから身近に親しまれていたフジバカマも、開発とともに激減している。



白鷺の一種で、夏の水田などで普通にみられたが、開発などによって個体数が激減している。



雑木林の生きものを代表する蝶。都市部では雑木林の減少とともにみられなくなっている。

●身近な自然を守ることが大切

野生の生きものは、生態系のバランスを保つだけでなく、食糧や燃料、衣料品や医薬品の素材として、また生物化学の発展に必要な貴重な遺伝子資源としても人類の生活になくてはならない存在です。

例えば人間が食糧を得て生活していくためには、野生の植物を利用した作物の改良により、高い生産性を保ち続けなければなりません。また、猛烈な勢いで進化する病原菌に立ち向かうためには新薬の開発が必要ですが、そのための素材の多くを野生の生きものに頼っています。私たちの

生活は直接的、間接的に多くの野生の生きものに支えられており、身近な生きものが姿を消し、身近な自然が次々と破壊されていく状況をこのままにしているのは、私たちのこの先の暮らしも成り立ちません。

しかし、身近な自然環境を守り、壊れた自然はもとのように復元していくことで、地域の自然環境全体を豊かにしていくことは可能です。そしてそれらの自然をつないでネットワークさせることで、自然と共生する地域づくりが可能となるのです。